全国過疎地域連盟会長賞

秋田県仙北市（せんぼくし）

がっこの学校　いぶりがっこう

ママ友のチャレンジが農村を変えた！「がっこの学校　いぶりがっこう」

秋田の伝統食「いぶりがっこ」を作り始めたママ友２人
地域の様々な人たちに支えられ、多くの体験者が農村に集まる活動になった

審査講評

評価のポイント

- 「いぶりがっこ」の生産過程を通した地域文化への本質的理解を、楽しみをもって受講生に訴求している。
- 人的資源を含めた地域のポテンシャルを自然なかたちで引き出しながら、長きにわたる取り組みを地道に進めている。

審査委員のコメント　**好きだからこその、伝わる・広がる・愛される取り組み**

ママ友でもある「校長先生」と「教頭先生」の巧みなパートナーワークとお人柄が土台となり、多くの方々に愛されながら10年以上も「いぶりがっこう」を運営されてきたことは、取り組みの過程で様々な波及効果や派生需要を生み出してきたことも併せて注目に値します。伝統食の味の向こう側にあるコンテクストへの認識とその伝え方は勿論、ミニマムな陣営を活かした実行力、地域内外の巻き込み方等、他地域の規範となることが期待されます。

取組の概要

ママ友2人が「子どもに安全なものを食べさせたい。だったら自分たちで作ればいい！」と、軽いノリでスタートしたいぶりがっこ作り。SNSでその様子を発信し続けると、共感を得て参加者が増えていった。活動は発展し、通年参加型の活動となった。農村へは全国から参加者が集まり、住民も巻き込んだ活動は過疎地域へ新たな風を吹き込んでいる。

参加者みんなで作った「いぶりがっこ」

種まき作業はいぶりがっこうの入学式です

大根を３日間かけて燻します
燻小屋の管理は地域の方（用務員さん）が行います

作業は重労働
みんなで声をかけながら作業します

西宮 三春さん
［校長］

村岡 歩さん
［教頭］

藤村 恒男さん
［用務員］

取組のKEY PLAYER

いぶりがっこの魅力を体感し、秋田の旬や文化を丸ごと楽しめる学校を目指します！

2012年、保育園のママ友だった私たちは、子どもに安心して食べさせられるいぶりがっこを自分たちで作ろうと動き出しました。地域のおばあちゃんに習い、畑や燻し小屋、樽を借りて始め、その様子をSNSで発信すると全国から反響が。そこで通年の体験型「がっこの学校 いぶりがっこう」を立ち上げました。これまでは参加費と自前のいぶりがっこ販売で運営してきましたが、2024年の食品衛生法改正で販売が難しくなり収入が減少。これからは収益よりも、体験を通じていぶりがっこの魅力と奥深さを伝える活動に力を入れていきます。

審査による現地調査でのヒアリング対象者

西宮 三春さん［校長］／村岡 歩さん［教頭］／藤村 恒男さん［用務員］

秋田県仙北市（せんぼくし）

団体名……がっこの学校　いぶりがっこう
所在地……〒014-0515 秋田県仙北市西木町門屋字漆原50-2
連絡先……TEL：080-3195-9241
E-mail：miharu_nishinomiya_423@yahoo.co.jp
URL：facebook.com/iburi.school/?locale=ja_jp

自治体・団体の詳細はこちらからご覧いただけます。